

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1492800048
法人名	株式会社 サンフォーレ
事業所名	街角の家 秦野
訪問調査日	平成 22年 3月 25日
評価確定日	平成 22年 4月 12日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1492800048
法人名	株式会社 サンフォーレ
事業所名	街角の家 秦野
所在地	神奈川県秦野市戸川130-1 (電話) 0463-74-3131

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年3月25日	評価確定日	平成22年4月12日

【情報提供票より】(平成22年3月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 2人, 非常勤 8人, 常勤換算 6.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての	3 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	142,485 円	その他の経費(月額)	38,535 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(240,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1か月当たり 40,950円		

(4) 利用者の概要(3月8日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.25 歳	最低	83 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘風クリニック(内科)、丹沢病院(精神科)、厚誠会歯科秦野
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

・事業所は小田急線秦野駅からバスで15分の富士山を眺望することができる閑静な住宅街にある。敷地内には、四季を感じさせる植木・花木・草花が植えられ、野菜栽培を楽しむ菜園がある。
 ・法人の理念は「地域社会との調和の中でシニアサービスを創造し、自由で活性化された高齢者社会を目指す」であり、サービス方針として「いつくしみの仕草」①生命は平等に与えられるが生き方は人それぞれ多様である、②自分らしく生きる大切さ、③「いつくしみの仕草」は心(愛)を支えるスキル、を基本にしている。
 ・毎週ケアカンファレンスを行い、医師、家族の意見、個人記録(健康管理表、介護記録、モニタリングシートなど)をもとにして介護計画を作成し、6か月ごとに全面的に見直している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初回の外部評価である。</p>
	<p>① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>・管理者が職員に評価の意義を説明し、管理者・フロアリーダー・職員1名が他の職員の意見を聞きながら自己評価票を作成した。自己評価票は事務室におき閲覧が可能である。 ・評価結果(自己・外部)は運営推進会議で報告する予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>・2か月ごとに併設の小規模多機能型居宅介護と合同で開催し、メンバーは、自治会長、民生委員、地域高齢者支援センター職員、市役所職員、家族代表、事業所関係者である。 ・排便の確認方法、昼夜逆転者の改善経過などのサービス状況や、ボランティア受け入れ促進など、活発に意見を交換している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>・苦情相談窓口(事業所、法人、市役所、第三者)を重要事項に記載し、契約時に説明している。玄関に法人の相談窓口を掲示してある。 ・年1回、家族アンケートで家族の満足度を把握している。 ・体調管理、衣類の補充などの希望事項があれば、職員の連絡帳、個人記録に記載し、職員は目を通して押印している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>・平成21年6月に自治会に入った。市主催の福祉フェスティバルに利用者が参加した。今後、お祭り、地域の消防訓練などの地域行事に参加する予定である。 ・散歩のときに近隣の住民に挨拶をし交流に努めている。 ・近隣のボランティアがコンサート、クリスマス会を開催し、併設の有料老人ホーム、小規模多機能施設の利用者と一緒に楽しんでいる。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の経営理念は「地域社会との調和の中でシニアサービスを創造し、自由で活性化された高齢者社会を目指す」であり、サービス方針として「いつくしみの仕草」①生命は平等に与えられるが生き方は人それぞれ多様である、②自分らしく生きる大切さ、③「いつくしみの仕草」は心(愛)を支えるスキル、を基本にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職員採用時、および、内部研修で理念、「いつくしみの仕草」について説明している。 ・毎朝、理念と「いつくしみの仕草」を職員全員で唱和し、日々のサービスは一律ではなく、利用者個人にあった対応をするようにしている。 ・理念、サービス方針は玄関ホール、事務室に掲示してある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・平成21年6月に自治会に入った。市主催の福祉フェスティバルに参加した。今後、お祭り、地域の消防訓練などの地域行事に今後参加する予定である。 ・散歩で近隣の住民に挨拶をし交流に努めている。 ・近隣のボランティアが、コンサート、クリスマス会を開催し、併設の有料老人ホーム、小規模多機能施設の利用者と一緒に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者が職員に評価の意義を説明し、管理者・フロアリーダー・職員1名が他の職員の意見を聞きながら自己評価票を作成した。 ・自己評価票は事務室におき、職員は自由に閲覧が可能である。評価結果(自己・外部)は運営推進会議で報告する予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月ごとに併設の小規模多機能型居宅介護と合同で開催し、メンバーには、自治会長、民生委員、地域高齢者支援センター職員、市役所職員、家族代表、事業所関係者が参加している。 ・介護の方法(例、排便の確認方法、昼夜逆転者の改善経過)、ボランティア受け入れ促進など意見を交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市の高齢介護課職員と日常的に連携がとれている。運営推進会議に市職員が出席して意見交換しており、事業所が提供しているサービス内容を把握している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・遠方の家族に毎月手紙で、近隣の家族には訪問の際に本人の状況を伝えている。預かり金の毎月の収支報告をレシートを添えて手紙に同封、または、家族の訪問時に渡している。 ・緊急時(健康状態の急変など)は電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情相談窓口(事業所、法人、市役所、第三者)を重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。法人の相談窓口を玄関に掲示してある。 ・年1回、家族アンケートで家族の満足度を把握している。 ・玄関にご意見箱を置いてあるが、今まで利用例はない。 ・希望事項(例、衣類の補充など)があれば職員の連絡帳、個人記録に記載し、職員は確認して押印している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・年間3～4名の職員離職がある。離職・採用に際しては、家族への毎月の手紙の中で紹介している。利用者へのダメージはない。 ・休暇、勤務時間など職員の希望や、提案(行事計画案など)を可能な限り取り入れ、職員が定着するように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・県、市、研修機関が主催する外部研修に延10名の職員が参加している。(認知症および認知症のなど、9回。) ・毎月法人による内部研修があり、管理者、フロアリーダー、サブリーダーが参加し、新人は別に6か月コースに参加している。 ・研修報告書を事業所に提出している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市主催の介護支援専門員協会にケアマネージャーが参加し、全8事業所の担当者と交流をしている。 ・今後は市内8事業所間の交流を考えたい。	○	介護支援専門員協会、運営推進会議などの機会に市役所職員に働きかけ、市内の他事業所とのネットワークを構築されることが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めよう家族等と相談しながら工夫している	・事前のアセスメントの結果を、入所後のサービスに反映している。 ・体験入所を勧め、事業所の雰囲気やサービス内容を理解してもらうように努めている。 ・入所後は職員がきめ細かく対応し、家族と連絡を密にし、他の利用者の良い関係ができるように配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は「いつくしみの仕草」の考えを基本にし、本人を主体にして共に過ごしている。花を育てることが好きな人、もと体育の先生に、職員が「教えて欲しい」と働きかけるなど、一緒に過ごす関係を築いている。 ・利用者が窮屈に感じたり、いらいらしているときは、1階の広いリビングルームや建物周囲の周回路に案内し気分転換を図っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常の会話の中から本人の思いや意向を把握している。 ・意思表示が困難な利用者の場合は、家族の意見を参考にし、また、様々な声かけをして欲していることを察するようにしている。 ・申し送り、連絡ノートなどで本人の思いを職員間で共有するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・毎週日曜日に利用者1人を対象にして、管理者、ケアマネージャー、可能な職員が参加してケアカンファレンスを開催している。 ・事前に医師、看護師、家族の意見を把握し、個人記録(健康管理表、介護記録、モニタリングシート、医療情報記録)をもとにして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・6か月ごとに総見直しをするが、その間に変化を生じた場合は家族の了解を得て介護計画を変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族の要請があれば、かかりつけ医への通院支援をしている。 ・併設の有料老人ホーム、小規模多機能型居宅介護の利用者がいる1階のリビングルーム(兼食堂)で気分転換をしたり、クリスマス会などで、ボランティアによる合同イベントに参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医を継続している利用者がいる。 ・協力医療機関は湘風クリニック(内科、隔週往診、および、利用者の状況に応じて必要日に往診)、丹沢病院(精神科、必要時のみ通院)、厚誠会歯科秦野(毎週往診)であり、家族の了解のもとで受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・法人の「看取りに関する指針」があり、家族の同意・意思確認、医師・看護師との連携体制、職員の役割、救急対応などの項目にを詳細に規定している。 ・重度化した場合は、医師、家族と緊密に連携をし、医師の指示、家族の意思のもとで適切に対応をしている。(平成21年度に一例あり。)	○	法人の「看取りに関する指針」に基づいて、職員の勉強会を持ち、職員の役割、救急対応、終末期のケアに関する理解を深めることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者家族との会話の中で、他の利用者が話題になったとき誰のことか気づかれる場合もあるので、話題には注意している。 ・内部研修の資料を回覧して内容を伝えたり、朝のミーティングで全職員へ周知を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者一人ひとりに声をかけ、体調も考慮に入れて動きたい、動きたくないといった気持ちを優先している。暴力が出る方もいるので、強制はしていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・自分の食事の準備は自分でするようにしており、他の利用者の分まで汁や飯をよそうことはしていない。下膳や食器洗いはせず、それぞれの居室に戻り食後休憩をとっている。 ・行事食の場合でも嫌いなメニューには代替食をだし、誕生会では有料老人ホームや小規模多機能の方々と一緒にケーキで祝う。	○	・本部の栄養士による献立に加え、食材の工夫、例えば畑でとれた野菜をその日の献立に加えたり、イチゴをデザートに、菊やハーブをトッピングにしたり、オセチや昔の料理を利用者で作ったり、共に楽しむ食事の方法を取り入れることを期待します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴前は血圧・脈拍・体温を測ってから、利用者の気分と体調が良いときに最低でも週2回は、入浴している。 ・同性介助を心がけている。 ・入浴を好まない利用者には時間を置きながら声かけを行い、それでもダメな時は家族に連絡し、声かけに協力してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・ボランティアが、レクリエーションに訪問し、フラダンス・歌・ピアノを聴いたりしている。業務用の綿菓子機械をボランティアが持ち込み綿菓子作りをして、利用者に好評であった。陶芸・ビーズ作品制作等もあり、玄関ホールに展示している。 ・秦野市の平成21年度福祉フェスティバルに参加した際、共同制作をし、作品を3階の食堂に飾っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・月1回の買い物、ジャスコツアーに利用者で行っている。 ・御殿場にドライブを兼ねてイルミネーション「時のすみか」を観に行った。 ・日々の散歩は児童遊園・運動公園・戸川公園に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・サンフォーレの運営規定に従い、玄関・居室には拘束を禁止し鍵はかかっていない、又、自動ドアは、外からは自由であるが、中からは、カードがないと、誰でも出ることにはできない。夜間是不審者対応のセンサーが働いている。 ・「いつくしみの思草マニュアル」の中に身体拘束ゼロ11か条があり職員に周知させ、外部研修も受けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回のうち1回は、消防署立会いで避難・通報訓練と防火設備点検を行っている。地域の方々へ参加も呼びかけている。 ・居室と廊下にスプリンクラー、煙・温度検知器を設備している。1階の事務所に消防署と直結している通報設備がある。 ・食料・水は一週間分の備蓄がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の熱量は1500kcalと1000ccの水分補給をしている。食事ごとに水分補給ができない方には、時間を置いて少しずつ補給している。 ・献立表の一日分のカロリー計算や栄養バランスは、本社の栄養士が管理している。 ・残食の状態は本社に口頭で報告している。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の花々や野菜を育成している庭は周遊でき、庭の花をテーブルに飾ったり、レクリエーションの作品を玄関ホール、1階・3階の食堂に展示したりしている。 ・3階の事務室には、利用者や家族もくつろげるソファを置き、TVや、紙芝居も観られる。 ・共用空間は清潔で悪臭もない。 		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前に壁紙や、カーテンを利用者に選んでもらいリフォームしている。3・4階の居室は明るい雰囲気である。 ・TV・仏壇は、持込自由で、タンス・ベッド・椅子等は施設で用意したものを使用し個人の好みの置物や装飾をしている。 ・掃除には利用者は関与せず職員が行っている。 		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	街角の家秦野
(ユニット名)	1
所在地 (県・市町村名)	神奈川県秦野市戸川130-1
記入者名 (管理者)	小野 香織
記入日	平成 22 年 3 月 8 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	運営推進会議や市主催の福祉フェスティバルを通して地域住民や関係者とのつながりをより一層広げる契機としたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	現在近所に外出する機会が少ないため、これからは、顔を合わせる機会を作り積極的に声掛け、挨拶を積極的に行っていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域社会に根付くように運営推進委員会の参加者にご協力を得て利用者に対し安否確認、話し合いの場を持ち役立つ事を考えている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価の実施にあたり、理念の実現に向け職員間で意見交換し、今後地域に貢献していきたい。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2月22日小規模多機能型居宅介護と合同で開催。サービス内容や現在の活動等について報告・意見交換を行った。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>サービスの疑問点等を市の担当者に確認の為何うようにしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>			
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者の入浴時アザなどの確認、発言内容や精神状態のチェックなど、細かく注意を払っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人・リーダー・管理者の勉強会を行っている。社外の勉強会には職員が順番に受ける機会を増やしていきたい。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催介護支援専門員協会へケアマネージャーが参加し、交流を持っている。今後は、ケアマネージャ以外の職員も同業者との交流を持ちたいと思っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1人ひとりのストレス軽減のために、昼食時等を利用して話し合いの場を設けようと思っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働条件と就業規則は整備している。又、全職員を対象とした健康診断を実施している。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	その人に合った対応の仕方を工夫し、お互いの信頼関係を作る事を心掛けている。笑顔で接する、優しい言葉掛け、傾聴する姿勢など、その人が安心して、いろいろな事を言ってもらえる場が提供出来る様にしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	体験利用を提案し、事業所の雰囲気やサービス内容の理解、具体的な利用方法について説明し、初期の不安や疑問の解消に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始初期での関係作りを目的とした体験利用時に本当にこのサービスが必要か、他のサービスなのかを検討する。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用を提案し、事業者の雰囲気やサービス内容を理解の上、契約に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ただ食事や入浴、レクレーションを提案するだけでなく、利用者に昔の事や体験された事、スタッフを含め有意義な時間をもっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	自宅での様子と、ここでの様子は必ずしも同じではなく、その事を理解した上で、良く家族の気持ちを聞くように努力している。又、不安や心配があれば、何か支援できないか提案し、良い関係が作られるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族双方の適度な距離を保てるようにサービスに努める。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な在宅への帰宅等を支援していきたい。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれのペースで過ごされているも、だんだんそれぞれが必要になってきている。職員が間に入って今後も支援していきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用(契約)終了者は現在居ません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の置かれている状況、家族や周りの人の介護力を考えその人の望む事は何かという事を会話の中からつかむように心がけている。職員がそういう意識で情報がキャッチできるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生まれ育った所、家族、結婚してから現在に至るまでお聞きしてその人をよく知る事に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしの把握と合わせて、現在の1日のタイムスケジュールや日常の中で出来る事・出来ない事を聞き出して、どのような支援が必要か考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎週固定曜日に話し合いを持っている。家族には、新たな課題はその都度話し、意見を求めたり、職員より提案して、計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個人の身体状況、生活環境、精神状態などを見極め家族・各関係者との相談に応じ対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・介護個別記録・介護記録・居宅介護支援経過記録を介護計画の見直しの際に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来る限り、利用者や家族の要望に対応できるよう職員を配置している。急な場合でも、その必要性から対応できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人、家族の意向確認の下、非常時、緊急時対応を近隣住民へ依頼している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	単身者や家族協力困難ケースを想定し、今後の連携体制を構築したい。
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医の受診に関しては契約時に話し合い、今まで通りの往診での対応。又、状態変化時等はすぐ家族・かかりつけ医へ連絡・相談を行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者・家族への挨拶・言葉掛けは、優しく思いやりを持ってするようにしている。個人情報に関しては、利用者がいる所で話さない、職員以外の人に話さないなどを徹底している。また個人情報等は鍵の付いた場所に保管し持ち出し出来ない様にしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自分の考えや思いを職員と話せるような信頼関係を築けるようにしている。どんな場合でも決定権は利用者にある。それをどう支援していくかを、職員で話し合って支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の日常生活のリズムに合わせて、個別対応している。施設内での過ごし方も、お部屋や団欒室でテレビを観るなどその人のペースに合わせた生活(暮らし)を送って頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者が以前より馴染みの美容室がある場合は、予約し対応している。ご家族と本人の希望にそったおしゃれが出来るよう支援しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの内容が充実しており、好評を得ている。メニューについて説明し、その時に季節感や行事料理の話をしたり、利用者の好みなどを知らるように心掛けている。又個別対応で嫌いな食材の時はあらかじめ厨房にたのんでメニューを変えて対応している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族及び利用者・家族より嗜好をお聞きして、満足して頂くように支援している。本人の好みの品を家族に持参して頂いたり、購入して提供している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	家族も参加してお花見・ドライブ等をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にそって電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人達の訪問はいつでも気軽に訪問していただける様になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命、身体の保護上、緊急やむを得ない場合を除き行っていない。今まで一度もない。身体拘束委員会を設置している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は常に鍵を掛けないケアに取り組んでいる。外に出てしまう危険のある人にはスタッフが声を掛け合い対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士で声を掛け合い、利用者がどこにいられるか常に把握している。夜間時には、2時間毎に巡回し、様子確認をおこなっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や包丁など危険物品は、所定の場所に片付け保管をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒事故防止のマニュアルに基づいて対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況は必ず確認している。毎食のメニューは栄養士により献立が立てられている。糖尿病食も主食を調整して提供している。お茶やお水、ジュース等好みに応じてお出ししている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	社内勉強会にて職員に徹底予防に努めている。又、マニュアルは、いつでも閲覧出来るようにしている。家族・関係者には、玄関に消毒液を設置し、消毒の協力をお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	気持ちのふれあい食を追及するため安全な食材の管理に努めている。手洗いの徹底を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設内庭には、季節折々の花を植え又車での来館者用駐車スペースを整備している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル上には、庭に咲いている季節の花を飾ったり、創作した作品を展示をしている。また、テレビ前にはソファを用意し利用していただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい場合は居室にてテレビ観賞されたり、横になったりされて過ごされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は、その人らしさの追求、心の満足というつくしみの介護技術で、積極的にレクリエーション活動(コーラス・ゲーム・頭と身体を使う体操)を行うなど常に利用者本人の個性を尊重し、生きる喜びの実現を目指して支援しています。